

宝満山のヒキガエル観察 情報(2)

内容

- ・山頂に登ったカエル その後
- ・ヒキガエルの毒性



2014年2月8日
1合目と2合目の中間地点



冬のカエル
山頂気温1℃ 雨氷が観察された日

宝満山に登ったカエル その後

オタマジャクシから変態した子ガエルの一部は、一生を生きていくことができる場所（行動域）を宝満山山頂に求めて移動した。

カエルは10cm(人のこぶし)くらいの大きさに成長すると、自らが育った繁殖池に移動すると言われている。そうすると山頂で成長したカエルは登山口近くの池に戻ることになる。ことしの冬には下山するカエルが観察されるはずである。

ただし、体長10cm以上になると、**夜行性**となり日没から日の出の間に動くので、観察時間が夕方から早朝の夜間になる。

この冬は「特に8合目から山頂の間で、ヒキガエルが下山していたか」を観察するとともに、宝満山には夜間に登山している人が多いので、情報の収集も行いたい。

人間にとって急峻な登山道を登ったカエルがまた池に戻り、そして繁殖を終えた春の頃に再び山頂に登るのは本当だろうか。（山頂に戻ったカエルは初夏まで冬眠を続けるらしい）

ヒキガエルの毒性

ヒキガエルは他のカエルのように、うまく飛べずに歩いているが、捕食者はヒキガエルが毒を持っていることを知っているので手を出さない。

この毒は目の後ろの耳腺(じせん)や皮膚腺にあるので、素手で扱ったあとは、目や口にさわらないように注意し、良く手を洗う必要がある。

毒液は強く目にしみる。口にもしみるようである。

応急手当としては、必要に応じて目を水で洗うこと。

「野外における危険な生物、日本自然保護協会、平凡社、1997」